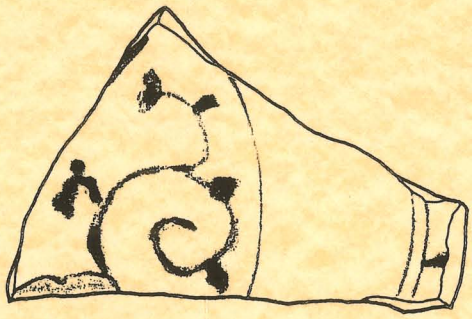
太子町文化財資料　第46集

鹿脇遺跡の調査

－農道丸山線改良工事に先立つ遺跡確認調査－



１９９４年１２月

太子町教育委員会

例言

1．本書は、兵庫県揖保郡太子町広坂字鹿脇41番地の11他における、農道丸山線改良工事に先立つ確認調査概要であら。

2．調査は、平成６年７月25日～８月27日にかけて実施したものである。

3．調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修二、海野浩幸が担当した。

4．調査・整理作業にあたっては、下記の諸氏の協力を得た。（五十音順、敬称略）

発掘作業員　小野八郎、栗岡恒、栗岡雪夫、須方照夫、藤井実、宮田昭男、大和正

調査補助員　大塩由佳子（大手前女子大学２回生）、小川亮子（同）

整理作業員　伊藤慶子、岩村千穂、小山真紀、中村豊子

座標測量　喜多村測量株式会社

調査協力者　藤井正之

5．本書の執筆・編集は、三村修二、海野浩幸が担当した。

本文目次

例言

調査に至る経過 …… 2
調査の概要 …… 3
出土遺物 …… 5
まとめ …… 7

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図 …… 1
第２図　調査位置図 …… 2
第３図　地形測量図 …… 2
第４図　遺構全体図 …… 3
第５図　土層断面図 …… 4
第６図　遺物実測図（１） …… 5
第７図　遺物実測図（２） …… 6

表目次

遺物観察表 …… 6

図版目次

図版１　調査前　（西から）
　　山側カット部分　（南から）
図版２　調査地全景　（南西から）
　　集石暗渠　（北から）
図版３　集石遺物（面子）出土状況　（南から）
　　土層断面　（南から）

本文目次

例言

調査に至る経過 …… 2
調査の概要 …… 3
出土遺物 …… 5
まとめ …… 7

挿図目次

第1図　周辺遺跡分布図 …… 1
第2図　調査位置図 …… 2
第3図　地形測量図 …… 2
第4図　遺構全体図 …… 3
第5図　土層断面図 …… 4
第6図　遺物実測図（1） …… 5
第7図　遺物実測図（2） …… 6

表目次

遺物観察表 …… 6

図版目次

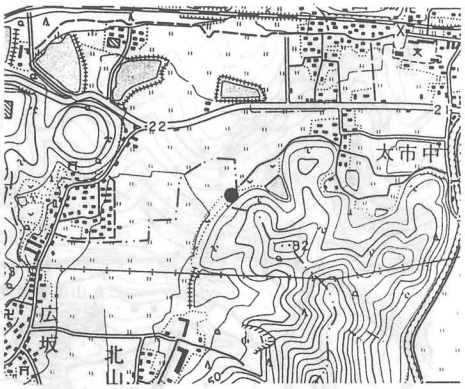
図版1　調査前　（西から）
山側カット部分　（南から）
図版2　調査地全景　（南西から）
巣石暗渠　（北から）
図版3　巣石遺物（面子）出土状況　（南から）
土層断面　（南から）

第１図　周辺遺跡分布図

１．鹿脇遺跡
２．向池遺跡
３．丸山墳墓群
４．広坂壺棺墓
５．西脇古墳群
６．広坂古墳群
７．太市向山遺跡
（邑智駅家跡推定地）
８．古代山陽道
９．昭和59年度
県教委調査地点
（西脇古墳）

鹿脇遺跡の調査

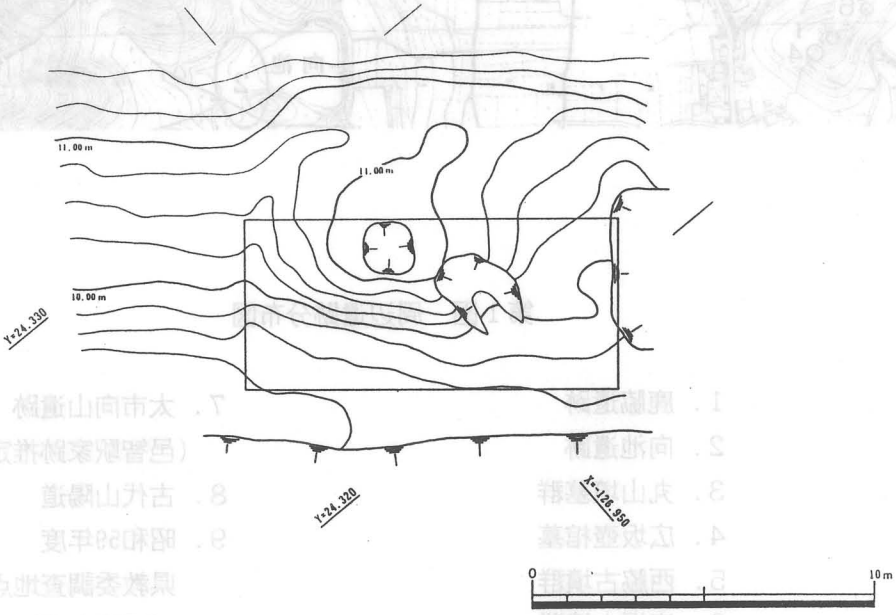
1．所在地
　兵庫県揖保郡太子町広坂字鹿脇41番地の11他
2．調査主体者
　太子町教育委員会
3．調査担当者
　三村修二、海野浩幸
4．調査期間
　平成６年７月25日～８月27日
5．調査面積
　66㎡
6．記録作成
　地形測量図（1/50）遺構平面実測図（1/10、1/20）
　土層断面図（1/20）遺物実測図（1/1）
　写真（ﾓﾉｸﾛ/ｶﾗｰ35mm、ｶﾗｰﾘﾊﾞｰｻﾙ35mm、　6×7cm 版ﾓﾉｸﾛ/ｶﾗｰ）



第２図　調査位置図
（1/25,000　龍野）

7．調査に至る経過

今回、農道丸山線の改良工事が行なわれることになり、太子町広坂字鹿脇の工事予定地内に古墳状の高まりが一箇所認められ、地形の観察から古墳の可能性が考えられるため、確認調査を実施することにした。調査地は竹林で、現状では山側斜面は弧状にカットされており、長径約10m、短経約８m、西側の里道からは約1,7 mの高さを測る。



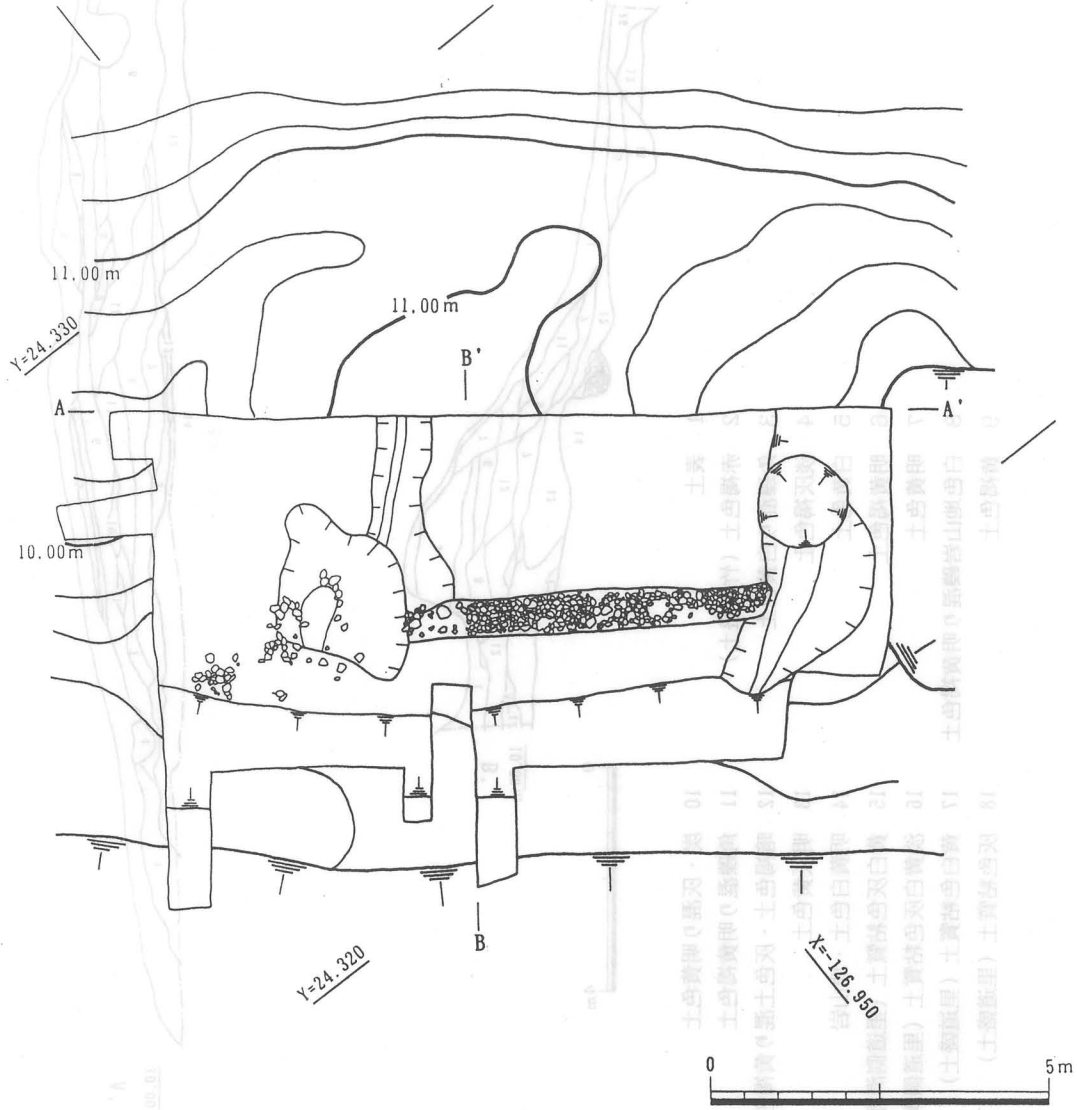
第３図　地形測量図

８．調査の概要

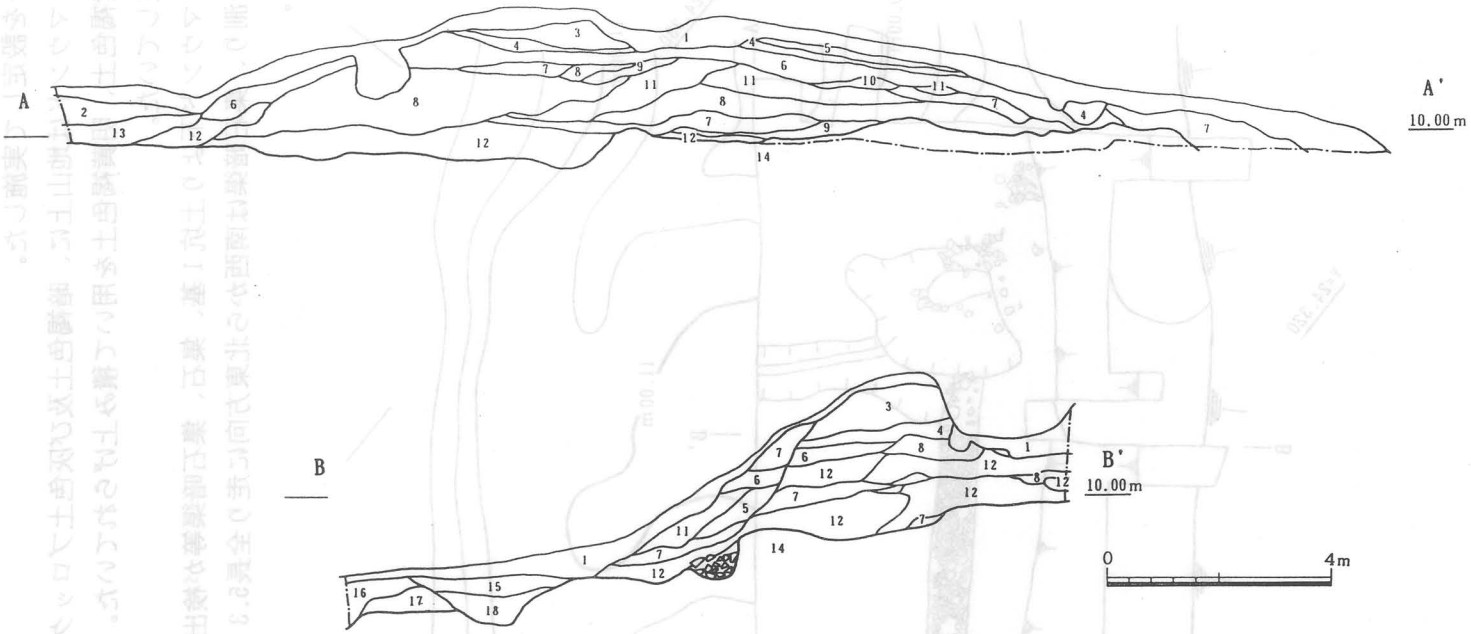
調査は、工事路線がマウンドの中央部まで達するため、これを分断するかたちでトレンチを設定して実施した。

マウンドは地山上に、暗褐色土及び灰色土ブロック混り黄褐色土、明黄色土、角礫混り黄褐色土、明黄褐色土を用いて積み上げられていた。盛土は、非常に固く締まった状況を呈していた。

マウンド下より土坑１基、集石、集石暗渠等が検出された。土坑は径1.9 m、深さ60cmを測り、集石暗渠は南西から北東方向に走り全長5.3 m、幅50～65cm、深さ23～25cmを測る。



第４図　遺構全体図

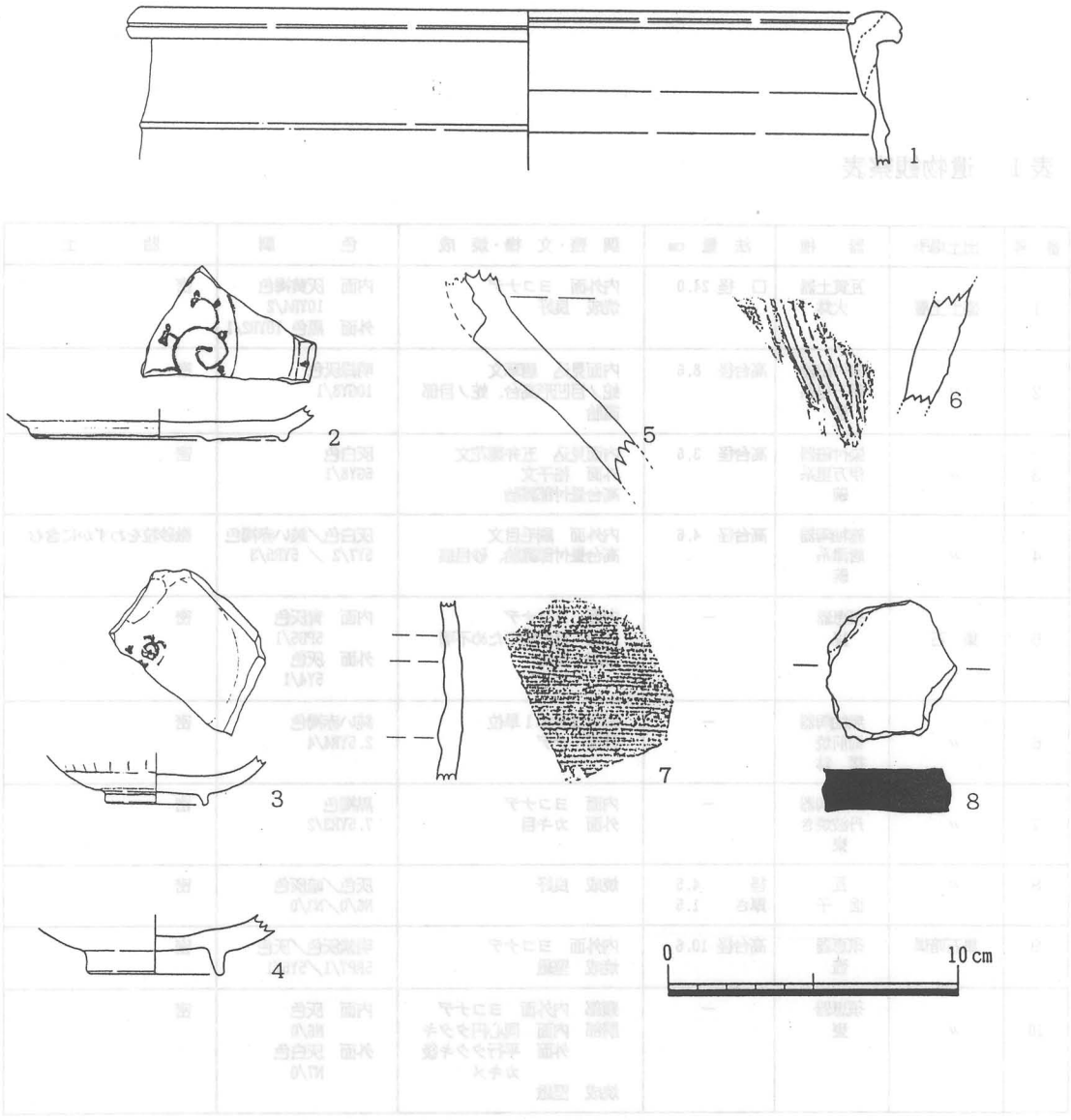


1　表土
2　赤褐色土（竹林盛土）
3　角礫混り白黄色土
4　淡灰褐色土
5　白黄色土
6　明黄褐色土
7　明黄色土
8　白色地山岩礫混り明黄褐色土
9　黄褐色土
10　炭・灰混り明黄色土
11　角礫混り明黄褐色土
12　暗褐色土・灰色土混り黄褐色土
13　明灰黄色土
14　明黄白色土・地山岩
15　黄白灰色粘質土（里道側溝埋土）
16　淡黄白灰色粘質土（里道側溝埋土）
17　黄白色粘質土（里道盛土）
18　灰色粘質土（里道盛土）

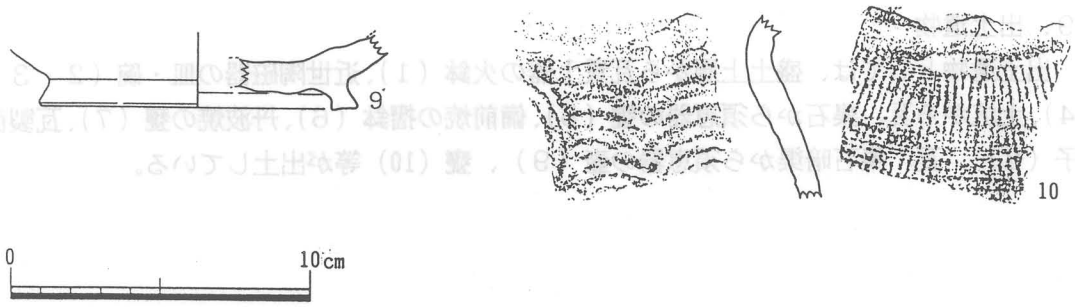
第５図　土層断面図

9．出土遺物

出土遺物としては、盛土上層から瓦質土器の火鉢（1）、近世陶磁器の皿・碗（2・3・4）、土坑から瓦、集石から須恵器の甕（5）、備前焼の摺鉢（6）、丹波焼の甕（7）、瓦製面子（8）、瓦、集石暗渠から須恵器の壺（9）、甕（10）等が出土している。



第6図　遺物実測図（1）



第７図　遺物実測図（２）

表１　遺物観察表

番号	出土場所	器種	法量 cm	調整・文様・焼成	色調	胎土
1	盛土上層	瓦質土器 火鉢	口径 24.0	内外面　ヨコナデ 焼成　良好	内面　灰黄褐色 10YR4/2 外面　黒色 10YR2/1	密
2	〃	染付磁器 伊万里系 皿	高台径　8.6	内面見込　唐草文 蛇ノ目凹形高台、蛇ノ目部露胎	明緑灰色 10GY8/1	密
3	〃	染付磁器 伊万里系 碗	高台径　3.6	内面見込　五弁蓮花文 外面　格子文 高台量付部露胎	灰白色 5GY8/1	密
4	〃	施釉陶器 唐津系 碗	高台径　4.6	内外面　刷毛目文 高台量付部露胎、砂目痕	灰白色／鈍い赤褐色 5Y7/2 ／ 5YR5/3	微砂粒をわずかに含む
5	集石	須恵器 甕	－	内面　ヨコナデ 外面　自然釉のため不明 焼成　堅緻	内面　青灰色 5PB5/1 外面　灰色 5Y4/1	密
6	〃	無釉陶器 備前焼 擂鉢	－	櫛目は９本１単位 外面　ナデ	鈍い赤褐色 2.5YR4/4	密
7	〃	無釉陶器 丹波焼き 甕	－	内面　ヨコナデ 外面　カキ目	黒褐色 7.5YR3/2	密
8	〃	瓦 面子	径　4.5 厚さ　1.5	焼成　良好	灰色／暗灰色 N6/0／N3/0	密
9	集石暗渠	須恵器 壺	高台径 10.6	内外面　ヨコナデ 焼成　堅緻	明紫灰色／灰色 5RP7/1／5Y5/1	密
10	〃	須恵器 甕	－	頸部　内外面　ヨコナデ 胴部　内面　同心円タタキ 外面　平行タタキ後カキメ 焼成　堅緻	内面　灰色 N6/0 外面　灰白色 N7/0	密

※　番号は遺物実測図と一致する。色調は日本色研事業株式会社発行『新版　標準土色帖　1992年版』による。

10．まとめ

調査の結果、当初考えられた古墳では無いことが明らかになった。検出された集石暗渠等から長辺９ｍ、短辺６ｍの方形のプランを呈する、人工的塚であることがわかった。

集石及び集石暗渠等からの出土遺物から江戸時代以降の塚と考えられるが、その性格については今のところ不明である。ただ昭和59年度に兵庫県教育委員会により山陽自動車道建設に先立つ確認調査で、調査地の北約 800mの地点で江戸時代以降に築かれたと考えられる塚が調査されており、距離的にもさほど離れていないことから、今回の調査例と比較検討する必要があろう。

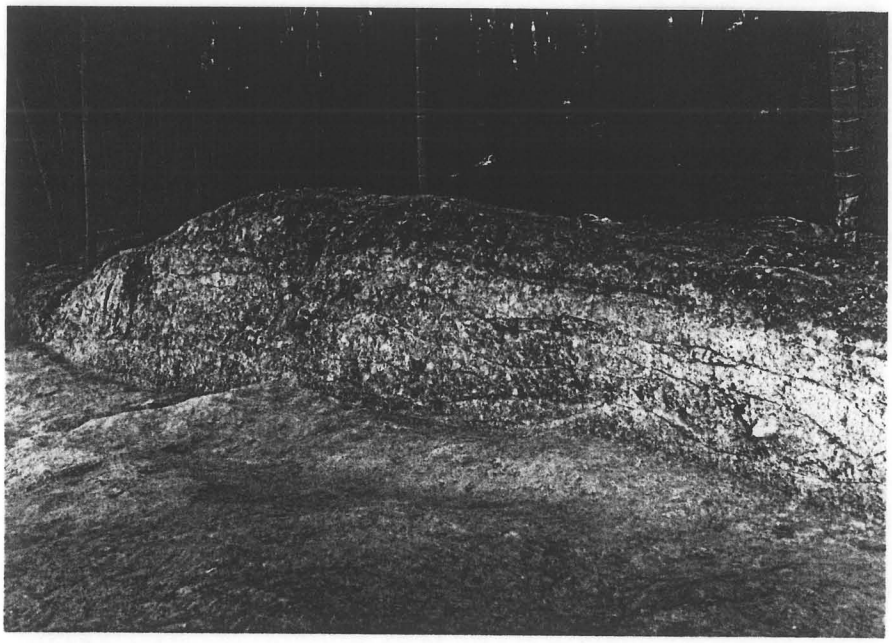
調査前（西から）

山側カット部分（南から）

調査地全景（南西から）

集石暗渠（北から）

集石遺物（面子）出土状況（南から）



土層断面（南から）